

# QOL

No.27

## QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



10月13日(木)～11月11日(金)までの約1ヶ月間、独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請を受け、フィジー、ソロモン、マーシャル、バヌアツ、トンガの5カ国から10名の研修員を受け入れ、生活習慣病予防に関する研修を実施いたしました。

### INDEX

- インタビュー「スポーツ基本法制定と本学のスポーツ展望」
- 第11回「新潟医療福祉学会学術大会」開催報告
- 国際交流 紹介
- 平成23年度「総合ゼミ」開催報告
- 学外実習体験記  
理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科／  
義肢装具自立支援学科／健康栄養学科／  
健康スポーツ学科／看護学科／社会福祉学科
- クラブ・サークル紹介
- CAMPUS NEWS
- 伍桃祭を終えて
- 受験生のみなさんへ



新潟医療福祉大学

2011年12月10日発行  
新潟医療福祉大学広報委員会編集

# スポーツ基本法制定と本学のスポーツ展望

## “スポーツは、世界共通の人類の文化である”

スポーツ基本法の前文は、この言葉から始まります。今回のスポーツ基本法の改正で、スポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性が改めて問われる形となりました。国家戦略としてスポーツを推進することが決まりましたが、そもそもスポーツ基本法とは？なぜ改正が必要だったのか？具体的な施策とは？そして、本学はこのスポーツ基本法と、どのように関わっていくべきなのか？

スポーツ界の憲法ともいえる今回の制定。スポーツ基本法と本学の取り組みについて考察します。

### | スポーツ基本法とは？ |



健康スポーツ学科  
教授 西原 康行

今年6月、我が国の国家戦略として大きな法案が国会で可決されました。東日本大震災への対応や不安定な政権運営に注目が集まっていたため、あまり話題にあがりませんでしたが、21世紀の国家の方向性を決める法案として関心が高まっています。それが、「スポーツ基本法」です。これまでに、東京オリンピックを控えた昭和36年に制定された「スポーツ振興法」がありました。しかし、当

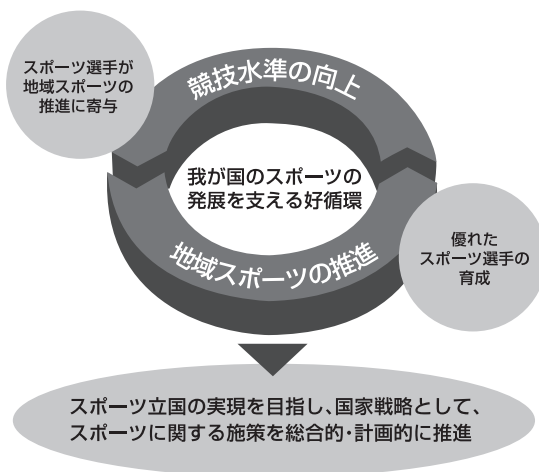
時は例えばパラリンピックに代表される障害者スポーツは厚生労働省の所管であるなど、必ずしも国として統一的なスポーツ振興政策が推進されているとは言い難い状況にありました。また、現代日本社会の超高齢化(=医療費増)、子どもの社会性欠如などは、日本の国力を大きく停滞させるという危機感から、スポーツや運動によって医療費を軽減し、子どもの健全な育成を行わなければならない必要性が直近の課題として挙げられています。そこで、「スポーツ振興法」制定50周年の今年、同法を全面改正した「スポーツ基本法」が超党派による議員立法という形で6月に可決・成立しました(施行は8月24日)。このスポーツ基本法は、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与するため、国及び地方公共団体の責務並びにさまざまな関係機関の責務を明らかにしています。これまでのスポーツ振興法は、どちらかというスポーツを国民の自主活動として捉えていましたが、スポーツ基本法は、法によってスポーツを具体的に推進していく内容となっているため、拘束力が高くなっています。



文部科学省より発表されたスポーツ基本法のリーフレット表紙

### | スポーツ基本法の基本的な施策とは？ |

まず前文では、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であることや、スポーツに係る多様な主体の連携と協働による「好循環」の創出など、スポーツの意義・効果などについて明記するとともに、スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略としてスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進することを明記しています。次に基本的な施策としては、指導者の養成などの基礎的条件の整備、地域スポーツ振興のための支援などの環境整備、優秀なスポーツ選手の育成などの競技水準の向上並びに国際的競技大会などの招致及び開催の促進などに必要な施策を講ずるとしています。さらに政府は、スポーツに関する施策の総合的、一体的かつ効果的な推進を図るスポーツ推進会議を設け、市町村の教育委員会がスポーツ推進委員を委嘱すると定めています。附則では、政府が「スポーツ庁」及びスポーツに関する審議会などの設置、行政組織の在り方について、行政



改革の基本方針との整合性に配慮して必要な措置を講ずるとしています。また、スポーツ基本法では「学校における体育の充実」も条文に盛り込まれました。子どもの心身の健全な育成にスポーツは欠かせません。基本法の前文には、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」とも謳っています。子どもの体力・運動能力の低下、社会性の欠如が指摘される中、体育の授業数増(大学教養体育も同様)、指導の充実やスポーツ施設の整備はもとより、地域スポーツ指導者も活用すべきだとしています。

### | 本学のスポーツに対する取り組み |

本学は、理念として、従来の“運動”だけに捕われず、保健・医療・福祉・スポーツの連携を推進し、“健康づくり”を含めた“教養体育”を重視してきました。この教育は、国の戦略を先取りした取り組みであり、活力のある、文化度の高い、社会性を身につけた学生を社会に輩出していることにつながっています。また健康スポーツ学科では、スポーツ基本法に謳われている「総合型地域スポーツクラブ」を研究・社会貢献の側面から支援しており、卒業生の多くもクラブで活躍しています。

今後のスポーツ振興は、企業スポーツ・株式会社化したプロスポーツでは限界であり、学校体育と地域のNPOとしての総合型地域スポーツクラブが連携して、国民の生涯スポーツや健康、一貫指導によるトップレベルの競技スポーツを支えていくことが重要です。その際、スポーツを崇高なレベルで指導できる「スポーツ教育者」の養成が急務だともいわれています。本学もこういった国家戦略に対して、急がず、焦らず、社会の潮流を冷静に見極め、きちんと足元を固めながら応じていくことが必要でしょう。



総合型地域スポーツクラブの活動にて、運動指導を行っている健康スポーツ学科の学生

※リーフレット表紙、チャート図は文部科学省HPより転用 ([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/kihonhou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/index.htm))



# 「第11回新潟医療福祉学会学術大会」開催報告

新潟医療福祉学会は、本学が設立されると同時に、本学を中心にした新潟県内の健康と医療福祉に関わる職業を専攻されている人たちの研鑽の場として立ち上げられました。また、個々の職能者のみを対象とする学会ではなく、健康と医療と福祉に関連した全ての職種の人たちを対象とする幅広い職能者の集まりであり、それぞれの情報を交換し合い、「チーム医療」を実感できる場にもなっております。

## 今年度テーマ

10月22日(土)、本学キャンパスを会場として、第11回新潟医療福祉学会学術大会が開催されました。今年度は、新潟県、新潟市、および新潟県理学療法士会、新潟県作業療法士会、新潟県言語聴覚士会、新潟県栄養士会、新潟県看護協会、新潟県社会福祉士会、新潟県介護福祉士会からのご後援を頂き、『高次脳機能障害支援：新潟における展開』と題したシンポジウムをはじめ、さまざまなプログラムを行いました。

## シンポジウム・プログラム

はじめに 高次脳機能障害とは / 今村 徹 (新潟医療福祉大学大学院 教授)

1. 高次脳機能障害支援事業と新潟県相談支援センターの活動  
福島久美子 (新潟県高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター)
2. 高次脳機能障害のリハビリテーション：回復期の医学的リハビリテーションから維持期の生活訓練まで  
工藤 由理 (総合リハビリテーションセンターみどり病院 リハビリテーション科 部長)
3. 高次脳機能障害の就業支援  
岩波 敏行 (独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 新潟障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー)
4. 高次脳機能障害の自動車運転技能評価  
外川 佑 (新潟リハビリテーション病院 リハビリテーション部作業療法科 作業療法士)
5. 活動をとおして日々感じること：繋がりたい想い  
石井 祐子 (地域活動支援センター スワン 施設長 / 脳外傷友の会 スワン 会長)

## 学術大会の様子

学術大会当日は、今年度の大会長である本学言語聴覚学科長の糟谷政代教授のもと、学内外から200余名の参加者が集いました。約70題の口頭およびポスター発表とシンポジウムが行なわれた会場では、終日熱心な討論が繰り広げられました。

平成22年度には、新潟県内の精神保健福祉センターに高次脳機能障害相談支援センターが設置され、保健・医療・福祉・教育の各分野においても医療的リハビリテーション、在宅療養介護支援、就業支援、家族支援と家族会の活動など、さまざまな展開が始まっています。今回のシンポジウムでは、新潟県下の各分野の皆さんに現場での活動をご報告頂き、今後の課題も含めて議論を深めることができました。



口頭発表会場での研究発表



シンポジウム『高次脳機能障害支援：新潟における展開』の総合討論



(右・左) 参加者の熱気渦巻くポスター発表会場



## 最後に

新潟医療福祉学会も発足から10年が経過し、今年度の学術大会の参加者数、発表演題数は、ともに過去最高を記録しました。これは発足当初の数倍という規模です。これも本学会が地域に根づいた学術団体として認知されつつあることの表われだと思えます。本学会では今後も、多くの保健・医療・健康・福祉専門職の皆さんの活動の場を展開していきたいと考えております。

来年度の学術大会は、本学医療情報管理学科の東條猛学科長を大会長として開催される予定です。来年度も多数の皆さんのご参加をお待ち申し上げます。

# 国際交流紹介

これからの保健・医療・福祉・スポーツを「創造」する、豊かな感性と幅広い視野を身につけるため、開学以来、積極的に国際交流を進めてきました。その国際交流の一部をご紹介します。

## JICA 研修実施報告

平成23年10月13日(木)～11月11日(金)に渡り、独立行政法人国際協力機構(JICA)の要請を受け、フィジー共和国、ソロモン諸島、マーシャル諸島共和国、バヌアツ共和国、トンガ王国の5か国から研修員を受け入れ、生活習慣病予防に関する研修を行いました。本学は保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、生活習慣病予防に必要な看護学、栄養学、運動指導、リハビリテーションのすべてに関する教育・研究を実施していることから、大学として日本で唯一、研修実施機関として選定され、JICA受託事業として研修員の受け入れ、学内外での研修を行っています。その研修プログラムの一部をご紹介します。

## JICA 研修プログラムの一コマ

体力測定と運動プログラム(ウォーキング、トレーニングセンターでの運動指導)担当

健康スポーツ学科 准教授 佐藤敏郎

### プログラム 1 体力測定

体力測定の項目(体力要素)では、握力(筋力)、長座体前屈(柔軟性)、閉眼片足立ち(平衡性)、上体起こし(筋持久力)、全身反応時間(敏捷性)、最大酸素摂取量(全身持久力)の6項目を実施しました。日本人の評価基準ではありますが、研修員の方々には、体力年齢の算出や、各体力測定の評価を行って頂きました。研修員のほとんどが、このような体力測定は初めての体験であり、中には自転車を漕ぐのも初めてという方もいました。日本では文部科学省が昭和39年以来、体力・運動能力調査を実施して、国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、その結果を国民の体力づくり、健康の保持増進のための施策に反映させるなど、行政上の資料として活用されています。また、地方教育行政、学校などにおいても体育・スポーツ活動の指導の資料として広く利用されています。このように、日本人

には児童から高齢者までお馴染みの体力測定も、研修員にとっては初めてのことで、初回の測定では戸惑う場面も多かったのですが、研修終了時にはリラックスして測定できたようです。研修員の結果は、個人差はあるものの全体的に筋力や敏捷性に優れ、全身持久力が劣る結果でありました。



体力測定の様子

## 海外提携校一覧

■サザン・クイーンズランド大学  
(University of Southern Queensland)  
国名/オーストラリア  
州・都市/クイーンズランド州ドゥーンバ市

■ハッサン大学  
(Husson University)  
国名/アメリカ  
州・都市/メイン州バンカー市

■ハバロフスク極東総合医科大学  
(Far-Eastern State Medical University)  
国名/ロシア  
州・都市/ハバロフスク市

■カリフォルニア州立大学フレズノ校  
(California State University, Fresno)  
国名/アメリカ  
州・都市/カリフォルニア州フレズノ市

■キングストン大学  
(Kingston University)  
国名/イギリス  
州・都市/ロンドン市

■セントジョージズロンドン大学  
(St George's, University of London)  
国名/イギリス  
州・都市/ロンドン市

■弘光科技大学  
(Hung Kuang University)  
国名/台湾  
州・都市/台中市

■アンヘルズ大学財団  
(Angeles University Foundation)  
国名/フィリピン  
州・都市/パンパシガ州 アンヘルズ市

■サント・トーマス大学  
(University of Santo Tomas)  
国名/フィリピン  
州・都市/マニラ

■ハワイ大学  
(University of Hawai'i at Mānoa)  
国名/米国  
州・都市/ホノルル

※平成23年度 12月10日現在

## Pick up

### フィリピン共和国 サント・トーマス大学と国際交流に関する覚書を締結しました。

平成23年10月26日、フィリピン共和国 サント・トーマス大学と、国際交流に関する大学間覚書を締結いたしました。今回覚書を締結したサント・トーマス大学は、マニラ首都圏の中心部に位置する大学で、開学400周年を迎えたアジア地域に現在する最古の大学です。サント・トーマス大学と本学が協同してアジアにおける保健・医療・福祉・スポーツの課題に取り組むことは、未永く社会で、世界で必要とされる人材を輩出するために大変意義のあることと考え、今回の締結に至りました。



調印式の様子

## プログラム2 運動プログラム(ウォーキング)

生活習慣病予防の有効な運動は、ウォーキング、ジョギング、水中運動、サイクリングなど、さまざまな運動が挙げられますが、中でもウォーキングは安全であると同時に、特別な技術や道具、施設が無くても実行することができます。また、個人・集団関係なく行うことができます。そこで運動プログラムでは、初めにウォーキングを実施し、生活習慣病の予防や運動療法として、自国で簡単にこなせるようシンプルな動きを意識し、体験してもらいました。準備運動のストレッチングを20分間ほど入念に行ってから、ウォーキングはランニングトラックを利用し、各自に合わせたスピードを脈拍から設定して歩いてもらいました。また、オプションとしてラダーやバランスパーを利用した歩行も体験しました。さらに、補強運動として道具を使わない

で自分の体重だけを利用した筋力トレーニングで一汗流してもらいました。



ラダーを使用した歩行体験

## プログラム3 運動プログラム(トレーニングセンターでの運動)

日本ではフィットネスクラブ、スポーツクラブといった呼び方をされる、いわゆる「スポーツジム」の普及が進み、会員数はおよそ280万人ともいわれています。そこで、もうひとつの運動プログラム

研修前後の体力測定やウォーキング、トレーニングセンターでの運動すべてにおいて、ゼミ生が研修員をサポートし、交流も深まり、いい経験となったのではないのでしょうか。この経験を活かし、世界で活躍、必要とされる人材へと成長してもらえればと思います。



筋力トレーニングの様子

ムでは、本学のトレーニングセンターを利用した運動を実践してもらいました。こちらにも研修員には、初めての経験の方もおり、戸惑う場面も多かったのですが、ゼミ生が研修員をサポートし、研修を進めることができました。



交流会の様子

今年度のJICA研修では、運動プログラムの他にも、栄養・看護における実践的な研修プログラムの実施、新潟県庁・新潟市役所への表敬訪問、病院見学、新潟市教育委員会や小・中学校など地域との交流、新潟観光など、さまざまなプログラムを実施しました。研修終了後も教員が現地に赴き、フォローアップを行うなど、継続的に評価を行う予定となっています。

また、JICA研修のほか、海外学術交流会、海外研修、留学生の受け入れ、海外大学との連携を引き続き推進していくことで、本学の目標である「アジアの保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、ナンバーワンになる」ことを目指してまいります。

## JICA×新潟医療福祉大学大学院 国際協力機構(JICA)・ 新潟医療福祉大学大学院連携 青年海外協力隊等 プログラム

日本初!

修士課程に在籍しながら青年海外協力隊等の隊員として派遣国で活動できるプログラム

### プログラムの特色

- 1 青年海外協力隊等として現地活動中も本研究科教員の指導を受け、帰国後に現地での体験、実践を通じて得られた気づき、課題等を課題研究としてまとめることで修士の学位も取得します。
- 2 青年海外協力隊等として赴任する前(後)に、開発途上国の保健課題に対する対策の計画・実施についての実践的な演習を行うことで、効果的な国際保健協力のスキルを向上させることができます。
- 3 在学、修了生、協力隊経験者とのネットワークを作り、それを活かした演習を行うことで、赴任中の業務や、派遣後の進路を考える上で、他者の経験を参考にすることができます。

詳細に関しましては、大学院入試事務室(025-257-4459)までお気軽にお問い合わせください。



# 平成23年度 総合ゼミ 開催報告

平成23年9月12日(月)～16日(金)

「総合ゼミ」とは、本学の特徴的な取り組みのひとつである「連携教育」の一環として、4年次前期に開講されるゼミで、これまで学内外で修得した専門知識・技術を総動員し、チーム医療などを実践的に学んでいきます。また、ゼミでは具体的な症例をもとに、関連する学科が混成でグループを形成し、グループワークを通じて対象者のQOLの向上に向けた具体的な支援策を意見交換し、検討結果を発表します。

本年度の「総合ゼミ」では、新潟薬科大学、日本歯科大学、首都大学東京の学生が、本学学生と一緒にチームの一員となり、その学びに加わって頂きました。

## 連携は世界をよくできる、きっと!

担当教員代表 古西 勇

「開発途上国における村のヘルスケアと障害のある人たちへのリハビリテーション」をテーマとして、本学を訪問中のフィリピン人の理学療法士(本学と大学間協定を締結しているアンヘルズ大学財団の教員)2名の先生方とともに、フィリピンの地方の農村部の村に住む脳卒中の後遺症で障害のある年配の女性の医学的・社会的背景の情報を提供してもらい、その女性の健康状態や生活機能を一緒に考えました。

参加学生は、理学療法学科、作業療法学科、義肢装具自立支援学科、健康栄養学科、看護学科、社会福祉学科の各学科から合計9名と首都大学東京の放射線学科の学生1名でした。彼らは、フィリピンの先生方とのコミュニケーションを全て英語で行いました。最初は、皆とまどいながらも、終わりには遠慮せずに英語で質問している学生たちの姿を見て、彼らの柔らかな感性が伝わってきました。最終日の発表に向けた準備も、学生たち自身が日々計画的に進め、見事でした。学生たちは、さまざまな学科から集まり、お互いに学び合いながら一つの発表を作り上げるということに意義を感じていたようです。

発表は、事例の紹介の後、課題として①医学的な解釈②QOL(生活の質)の現状③QOL改善のための方策の3つが挙げられ、心身機能や障害・活力の問題点などに加え、フィリピン特有の社会・経済的環境(人口の半分が低所得層)などにも触れ、皆で知恵を出し合った現実的なQOL改善の方策を発表しました。具体的には、理学療法学科・作業療法学科の学生が外出が困難という問題点に対して動作の工夫の提案、義肢装具自立支援学科の学生が麻痺した足用に現地ですりこみ材料で作れそうなサポーター装具の提案、社会福祉学科の学生が地域の理解と協力を得る手段の提案などといった役割分担を行い、それぞれ自分が目指す専門職のできることを考察しながら、チームが一体となることの楽しさを実感してくれました。

フィリピンの先生方からも、事例とさせて頂いた女性のために少しでも役立つことを考えようという力を合わせた学生たちへ賞賛の声を頂きました。先生方が学生たちの昼食のために調理してくれたフィリピンの美味しいスープ料理も懐かしい思い出となっています。



## 参加学生からの感想・コメント

- 文化や環境が日本とは異なる国の片麻痺患者様は難しい症例でしたが、他学科と意見を交換し、問題点抽出、改善策考案をしました。他職種の見解は自分とは視点が変わり、多方向から患者様について考えることができ、非常に良い経験となりました。(理学療法学科 学生)
- 最初は苦手な英語に抵抗がありましたが、文化・生活の違いを知るうちに、もっと聞きたいと思うようになりました。他学科の学生との交流はもちろんですが、海外との交流ができたことが、このグループの大きな魅力だと感じました。(作業療法学科 学生)
- 自分たちの学科では理解できる用語でも他学科の人が分からない用語もあり、説明することが難しかったのですが、社会に出る前にチームアプローチを体験できて良かったです。(義肢装具自立支援学科 学生)
- 他学科の学生と意見を交わすことで、新たな発見があり、他の専門領域の知識も修得することで、改めて連携の大切さを感じました。英語が理解できず、苦勞した点もありましたが、日を追うごとに積極的に会話ができるようになり、コミュニケーション技術も向上させることができました。短い期間ではありましたが、大学4年間の学習を活かすことができ、とても良い経験となりました。(社会福祉学科 学生)

## 発達遅滞児への就学支援 ～NOTAを活用した総合ゼミの実践～ 担当教員代表 松井 由美子

本グループでは、総合ゼミにおいて初めてオリエンテーション終了後から本格的なゼミが始まるまでの約6週間、電子掲示板NOTAを使用して自己紹介や、事例についての意見交換などを事前に行いました。NOTAは画面上の好きな位置に文字や絵を書いたり、写真を貼り付けたりして情報交換や会話ができるコミュニケーションツールです。6週間を2週間ずつ3回に分けて、それぞれ「自己紹介」「自分の目指す専門職の説明」「事例に対する意見・質問」の3つの課題で情報を交換し、共有しました。積極的なアクセスと書き込みがあり、好きなスポーツや趣味を話すなど、簡単な自己紹介を行うことができました。顔が見えるように、顔写真を貼り付けるとより分かりやすかったかもしれません。NOTA上で書き込む時に、文字変換がスムーズにできないというトラブルはありましたが、次第にコツを覚え、写真の貼り付けなどもできるようになりました。5日間の対面型ゼミに入ってからグループワークでNOTAを使用し、スケジュールの確認、各自が分担した調べ学習の結果などをNOTA上で討論し、発表もNOTA画面を使って行うなどフルに活用することができました。



本事例の支援対象者は児童虐待(ネグレクト)に伴う精神発達遅滞のある小学1年生で、特別支援学校でも療育センターでもさまざまな職種の人に支えられ毎日生活しています。学生の皆さんはそれぞれの立場で、どうすればこの子が生き生きと生活していけるのかを話し合い、家族を含めた支援策を考えることができました。児童虐待は第四の発達障害といわれ、その背景には深刻化する子育ての問題があります。次世代を担う学生の皆さんが、一人の子どもの支援を通して子育てや家族の問題にも目を向けられたことや、このようなケースには多職種でのアプローチが不可欠であると感じ取ることができたことは大変意義深かったと思います。この事例は実例をもとに作成され、少しでも児童虐待をなくしたいという願いが込められていますので、卒業後は専門職の一人としてその実現のために活躍されることを期待しています。



### 参加学生からの感想・コメント

- 電子掲示板NOTAを使って発表時の連絡や家庭学習ができたので、メンバーとの情報共有・時間短縮に役立ちました。良い雰囲気グループワークが進められ、自分の役割が再確認でき、他職種の役割の理解やチームアプローチの重要性が分かったので、総合ゼミを受講して本当に良かったと思います。(理学療法学科 学生)
- NOTAを使うことで、他のグループより学習も発表製作も早くできたように感じました。グループの人たちと意見交換することで方向性を決められ、スムーズに楽しく活動することができました。(健康スポーツ学科 学生)
- NOTAを使うことで、自己紹介や事例に対しての疑問点を事前に話し合うことができよかったです。スケジュールはステップごとに目標設定がされていたので進行も効率よくできたと思います。(社会福祉学科 学生)

## 平成23年度 総合ゼミ事例一覧

- 中高年者のメタボリックシンドローム
- 高齢者の骨折予防・治療と生活支援
- 多系統萎縮症患者の「活動と参加」向上
- 児童虐待(ネグレクト)に伴う精神発達遅滞児への成長・発達支援
- 失語症状の認められる対象者の医療・福祉の統合
- 私も町のような人になりたい(統合失調症・精神発達遅滞への支援)
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)ケースの在宅療養実現への支援
- 高齢者糖尿病合併症患者
- 発達障害児の特別支援教育における外部専門家との協力
- 高齢化率34%の過疎地の介護予防事業の展開
- 新潟市児童虐待死亡事例の検証
- 開発途上国における村のヘルスケアと障害のある人たちのリハビリテーション
- 女子高校生競技者のFemale Athlete Triad (食行動異常、無月経、骨粗鬆症)
- 切迫早産・妊娠高血圧症候群で入院が必要になった妊婦への援助
- 脳梗塞四肢麻痺のリハビリテーションと地域生活支援



# 学外実習体験記

## 臨床実習を経験して

理学療法学科 4年生 鹿川 彰文



今回、私の出身地である長野県にある相澤病院で、10週間の臨床実習を行わせて頂きました。実はこちらの病院は、高校時代にけがをした時にお世話になり、理学療法士を目指すきっかけとなった病院でした。相澤病院は心臓・循環器、脳卒中、運動器リハビリ病棟に分かれており、さまざまな疾患に対応しているとともに、映画「神様のカルテ」の舞台となった病院でもあり、地域に根ざした急性期医療を目指しています。

今回、私は心疾患、整形外科疾患の患者様のリハビリに携わせて頂きました。最初は患者様の病気に対するアプローチだけにとらわれてしまい、肝心な患者様本人に対するアプローチができず、実習指導の先生に、今までの生活歴を情報収集し、退院後の生活を含めた包括的なリハビリを行うことの重要性を教えて頂きました。また実習中、私の行ったリハビリに対し、涙を流して感謝して頂き、リハビリのやりがい、楽しさを実感することができ、改めて理学療法士を目指す想いが強くなりました。同時に、今回の実習では知識・技術を学ぶことが多かった反面、課題点も明確になり、今後は学んだ知識・技術をしっかりと身につけ、課題点を改善できるよう努力したいと考えています。

また、先日、念願が叶い相澤病院から就職の内定を頂きました。これからはスタッフとして、患者様の満足のいくリハビリを提供できるように残りの学生生活を充実させていきたいと考えています。今回の実習でご協力して頂いた患者様、スタッフ、実習指導の先生方には、大変感謝しています。

## 飛躍 ～感謝の思いと共に～

作業療法学科 4年生 下村 健太



私は、総合臨床実習の身体障害領域において、東京都の回復期の病院で8週間の実習を行いました。実習前は、緊張や不安な思いもありましたが、実習が近づくにつれて、「自分がどうあがいても分からないことの方が多いのだから、学べる事は全て吸収してこよう」と、半分開き直り、実習初日を迎えました。

しかし、いざ実習が始まると開き直ってはいいたものの、知識不足や自分の未熟さ・無力さを日々痛感し、ショックを受けましたが、その際に担当患者様からの「堂々と自信を持ってやりなさい」という一言に、自分なりにきちんと向き合い、試行錯誤しながらやらせて頂こうという思いに変わりました。また、自分が成長するための実習という受動的な姿勢から、患者様の回復のために最善を尽くそうという姿勢に変わりました。この変化により、患者様を考える時間が多くなり、実習指導者のご指導、担当者様、家族、友人の支えで乗り越えることができました。実習最終日には、担当患者様からお礼の手紙を頂き、私のリハビリが少しでも患者様のサポートとなったことが分かりました。8週間の長い実習を終えて、作業療法士の大変さだけでなく、素晴らしさや魅力を改めて感じることができました。また何よりも家族、友人、先生方の支えがあったからこそ、今の自分があり、実習指導者のご指導により大きく成長することができました。まだまだ人間としても作業療法士としても未熟な私ですが、高い志をもって更なる飛躍を遂げたいと思います。

## 臨床実習で学んだこと

言語聴覚学科 3年 菅原 利江



今回私は、慶應義塾大学病院の耳鼻咽喉科で実習させて頂き、口唇口蓋裂、音声障害、人工内耳の患者様などを対象に、検査・訓練を行いました。今回の実習で口唇口蓋裂のお子さんに構音検査・鼻咽腔閉鎖機能検査をさせて頂いて感じたことは、異常構音を聞き分ける大切さです。明らかな異常構音のみではなく、音の歪みや、構音の特徴などを聞き分ける難しさを感じました。また、検査や訓練を行うことだけでなく、心理面のサポートを行うことも大切な役割であると感じました。「先生にだから話せる」と言った患者様の言葉が印象的で、信頼関係の強さを感じることができました。私も将来、あのような関係を築けるようになりたいと思いました。

今回の実習を通して、子どもとの接し方や距離の取り方など、実際の臨床現場で患者様とどのように関わっているのかを拝見し、机上では学ぶことのできない貴重な経験ができた一方、自分の知識のなさも痛感し、きちんとした基礎知識の必要性を感じた実習でした。また、口唇口蓋裂児のサポートでは形成外科、歯科、小児の医師と連携し治療・訓練を行っており各専門職間の結びつきの大切さを感じ、大学で学ぶ「チーム医療」を肌で感じる事ができました。今回の実習で学んだこと、感じたことを今後に活かし、自分の目標に近づけるように頑張ろうと思いました。不慣れな検査にご協力して下さった患者様、ご指導して下さった先生方に感謝しています。



## こころ素直に正直に、そして柔軟に

義肢装具自立支援学科 3年 秋場 周



今回、私は座位保持装置分野の実習に行かせて頂き、さまざまな施設や病院を巡らせて頂いた中で、改めて医療職種間の連携、コミュニケーション能力の大切さを実感することができました。

また特に印象に残っていることは、ある疾患を持ったお子さんに話しかけた際、まつ毛がきれいと言ったことで口にしませんでした。しかし、それは疾患特有のものだということの後からアドバイザーから教えて頂き「珍しい疾患であり、知らなくても仕方ないから次から気をつければ大丈夫」と言ってくれました。しかし、そこで知らなかったからと自分で言い訳をしては、そのお子さんや自分を支えてくれている人たちに失礼だと強く感じました。実習の準備をしっかり行い、もっと多くの知識を取り入れ、気配りを持って接していれば、防ぐことができたと思います。今まで学んできた知識はすべて繋がり、その一つが欠けているだけでも、患者様が本当に必要としているものを提供できなくなってしまうのだと感じました。



これを読んで頂いている人が、実習に赴く機会があれば、次のことを大切にしたいです。「こころ素直に正直に、そして柔軟に」一生懸命やっていると周りの人が応援してくれますし、一生懸命やっているかどうかは周りの人が判断してくれます。

1か月という期間でしたが、何事にも代えがたい充実した時間を過ごすことができました。今回の実習に携わってくださった多くの方々、自分を支えてくれているたくさんの繋がりに、心から感謝いたします。



本学では今年度、8学科が学外実習を行いました。

各専門職として高い実践力を身につけることを目標とした学外実習の成果を報告いたします。

## 公衆栄養学実習を終えて

健康栄養学科 3年生 糸川 則子



私は、新潟市保健所と西区役所にて、1週間の実習を行いました。栄養士の方をはじめ、多くの職員の方に指導して頂き、行政で行われている事業概要の説明や食育・花育センターの見学、保健所や区役所が実施している事業を実地体験させて頂きました。

実習を通し、今まで漠然としていた行政の役割や実際の行政栄養士の業務、他職種や地域の方との関わり方を学び、理解を深めることができました。特に、人と人のつながりを感じる場面が多く、一つひとつの事業が、他職種との連携や地域の方との関わり合いで成立していること、さらに“健康づくり推進”や“QOL向上”に結びついていることを学びました。そして、行政栄養士は知識や技術だけではなく、他職種や地域の方など、多種多様な人々と関わっているため、人としての礼儀や挨拶、相手を理解し尊重する人間性やコミュニケーション能力も高くなければ務まらないと感じました。実地体験では、地域の方とコミュニケーションを取ろうと心がけましたが、うまく会話することができず、消極的に終わってしまったため、日ごろから多種多様な人と接する機会を積極的に作っていく必要性を感じました。どのような職場、対象者に対しても相手を理解し、同じ目線で考えることのできる管理栄養士となれるように、今回の実習の経験を糧に、より一層勉学に励み、将来に活かせるように努めたいと思います。



な人々と関わっているため、人としての礼儀や挨拶、相手を理解し尊重する人間性やコミュニケーション能力も高くなければ務まらないと感じました。実地体験では、地域の方とコミュニケーションを取ろうと心がけましたが、うまく会話することができず、消極的に終わってしまったため、日ごろから多種多様な人と接する機会を積極的に作っていく必要性を感じました。どのような職場、対象者に対しても相手を理解し、同じ目線で考えることのできる管理栄養士となれるように、今回の実習の経験を糧に、より一層勉学に励み、将来に活かせるように努めたいと思います。

## トレーナーの役割

健康スポーツ学科 3年 渡辺 彩子



健康に対する関心が高まる現代、私たち健康スポーツ学科では、豊かな人生を支える上で重要な役割を担っている運動について、さまざまな視点から学んでいます。地域に密着したスポーツ施設である私の実習先は、トレーニングやピラティス、健康づくり運動の教室など、さまざまなニーズに応えるべく多くのプログラムが用意されており、さまざまな年代の方々が利用されていました。目的は人それぞれではあったものの、運動を通して同じ時間、同じ空間を共有し合うその環境は地域のコミュニティの場としての機能も果たしていました。実習の中で印象に残ったことは、私がトレーナー補助として参加した高齢者を対象とした運動教室です。教室は一对一ではなく一対複数で指導することが多いためそれを想定した指導案を考えなければならず、実際に体験してみると、その難しさを初めて知りました。また、プログラムの作成から場の設定、また個人差を考慮した時間配分など多くの準備があってこそ教室が成り立つことが分かりました。

この実習を通じて、トレーナーの役割は競技者を補助していくことだけではなく、特定分野や競技の有無にとどまらず、多くの方の健康を維持するきっかけをつくるのが本来のトレーナーのすべきことだと学びました。残りの大学生活では、将来トレーナーとして活躍できるように幅広い分野での知識修得を目指し、今回の実習で触れた現場の有意義な経験を活かしていきたいと思っています。

## そばにいることの重要性

看護学科 3年 兒玉 葉



私は、今、ようやく3つの領域の実習を終えました。それぞれの領域で学ぶことはとても多く、学校での授業では経験できない臨床での看護師の役割を学んでいます。精神の実習では、非言語的コミュニケーションについて学習し、言葉を用いなくても患者さんのそばにいてることによって、安心感や気持ちの安定に繋がることが学びました。また、慢性期の実習では、身体疾患と関連させて精神面をみていくことが、本当の患者様の求める看護を提供することに繋がることが学びました。さらに、母性の実習では、初産婦の方と出会い、その方の生まれたばかりの赤ちゃんの育児について、一緒に試行錯誤を繰り返したことで、ともに成長するような気持ちで実習を行いました。

それぞれ対象者は異なりますが、そばにいてことの重要性を学んだような気がします。本当に対象者の求める看護を実践しているのかと何度も自問自答を繰り返し、一緒にいてことで辛くなる時もありました。それでも同じ時間を共有することで、少しでもその方々への安心感に繋がったのではないかと思いますし、看護を実践する上で重要かつ基本である患者理解にも繋がったと思います。現在4つ目の領域実習に入っていますが、この学外実習での学びが一つでも多く、そして深くなるように身体的、心理的、社会的とさまざまな角度から対象者を理解し、実習を進めていきたいと思っています。また、この実習期間を通して看護学生としてはもちろんですが、人としても大きく成長していきたいと感じています。

## 相談援助実習を終えて

社会福祉学科 3年 笹川 千尋



私は今年の夏に、故郷である新潟市の南区社会福祉協議会で約1か月間にわたる実習を行いました。実習プログラムは、社会福祉協議会が行うさまざまな業務を経験できるように設定されていたため、毎日異なる現場を拝見することができ、社会福祉協議会という組織を包括的に理解することができました。また、自分が目指す職種の実際の様子を見ることができ、学校の勉学とは異なる多くの学びを得られたため、とても貴重な経験となりました。

特に印象に残っていることは、実習の最終日に行ったプレゼンテーションです。地域で生活する方の福祉課題と、地域そのものに存在する福祉課題とを照らし合わせ、双方にとって有用な事業を企画立案し発表するというものですが、正直とても大変で、今回の実習の中では最も困難な作業でした。しかしこの経験を通して、社会福祉協議会の職員にはコミュニケーション能力や創造力、企画力、実行力など、多岐にわたる力が必要であることを深く理解することができたとともに、地域で生活を送るたくさんの方々の笑顔や幸せに貢献したいと思いを強くし、改めて福祉の現場で働くことのやりがいと魅力を感じることができました。今回の実習を通して、個人および地域の抱える課題はさまざまであり、既存のサービスだけでは課題の解決には不十分であることを痛感しました。そして、それを補うものが人と人のつながりや、助け合いであることも体感することができ、地域を基盤とした住民主体の福祉の推進が必要不可欠だと再認識しました。今後は、この経験を勉学や進路に活かし、将来は人との関わりを大切に、人の思いや訴えに誠実に向き合って支援することのできる社会福祉士を目指したいと思っています。



# クラブ・サークル紹介

大学生生活の醍醐味ともいえるクラブ・サークル活動。

本学には、たくさんのクラブ・サークルがあり、実に10人に6人はクラブ・サークルに所属しています。今回は、体育系部活、文化系部活、サークル系、ボランティア系、4つのクラブ・サークルをご紹介します。

## 軟式野球部

### 体育会系

軟式野球部は、現在約30名で活動しており、月、水、土曜日にキャンパス内のグラウンドで練習を行っています。夏の全日本大学軟式野球選手権大会、秋の東日本大学軟式野球選手権大会に向けて、全国制覇を目標に、日々トレーニングに励んでいます。また、先輩・後輩の上下関係がなく、楽しみながら練習に取り組んでいることが軟式野球部の特徴です。練習も毎日ではないので勉強との両立もでき、良い仲間恵まれた楽しい部活です。全国制覇に向けて、日々一生懸命練習に取り組んでおりますので、応援よろしくお願ひします。  
(軟式野球部 部長 羽根 友樹 健康スポーツ学科2年)



## 茶道部

### 文化系

私たち茶道部は、毎週金曜日の18時から大学施設内の和室でお稽古をしています。現在は20名ほどの部員がおり、外部の先生をお招きして、お茶会に向けたお手前の練習をしています。春には新入生歓迎茶会、秋には大学祭でお茶席、冬にはクリスマス茶会やひな祭り茶会を開催しています。毎年7・11月には、学生交流茶会が開かれ、県内の他大学の方々とお茶会を通しての交流も行っています。その他にも、小学校へ茶道を教えに行ったり、大学に来られた外国の方に茶道を体験して頂くなど、ボランティア活動も行っています。茶道部は、先輩・後輩関係なく、とても仲が良く、アットホームな部活です。毎週楽しくお稽古しているので、ぜひ気軽に見学に来てください。おいしいお菓子とお抹茶もご用意しています。  
(茶道部 部長 高島まなみ 健康栄養学科3年)



## よさこいサークル舞桃会

### サークル系

私達よさこいサークル舞桃会は、今年の春に結成した新しいサークルで、現在30名で月・木曜日の週2日、イベント前は毎日放課後に練習をしています。部員のほとんどがよさこい初心者ですが、9月には県内最大の踊りの祭典である「新潟総踊り」に参加し、よさこいの創り出す世界観を感じるとともに、皆、心ひとつに私達らしいパフォーマンスができました。「新潟総踊り」だけではなく、本学の文化祭である「伍桃祭」や、JICA研修員送迎会、新潟県北の地域交流イベント「キテミテキタク」など、数々のイベントに参加させて頂きました。現在は、来年度に向けてオリジナル楽曲の制作の準備を進めています。「いい良さ来い、良い世の中よ来い」というよさこいの意味のもと、世界が平和になるように、皆さんの心に愛と感謝が届くようにと、心を込めて演奏をしていきたいと思ひます。「心踊れば皆同じ」という合言葉を胸に、皆で踊りを共有する時間を大切に楽しく元気に活動していきます。  
(よさこいサークル舞桃会 部長 田村菜 医療情報管理学科2年)



## レクア.コム部

### ボランティア系

レクア.コムは「レクリエーション&コミュニケーション」の略です。部員数216名というとても多い人数で、土日を中心にそれぞれ活動しています。レクア.コム部は、「人と触れ合う」ことを最大の目的として、活動のコンセプトは、「障がいの有無や年齢の差に関わらず、一緒に楽しむこと」「人と触れ合うことで何かを得て、そこからお互いを高め合うこと」「活動の主役は自分たちではなく、対象者であることを意識した活動をする」と、掲げています。具体的な活動内容は、児童や障がい児、障がい者、高齢者などを対象にレクリエーション活動やボランティア活動の参加、運営・企画などを行っています。また、地域のさまざまな活動に参加し、公民館や他大学、民間のボランティア団体なども活動し、コミュニケーションの輪を広げています。こういった活動を通じて、自己成長を促していくことを目標に活動しています。  
(レクア.コム部 副部長 鷲尾 航 理学療法学科4年)



## クラブ・サークル一覧

### 強化クラブ

- サッカー部
- 男女バスケットボール部
- 水泳部
- 陸上競技部

### 体育系

- 軟式野球部
- 準硬式野球部
- 男女バレーボール部
- 学友会サッカー部
- テニス部
- 卓球部
- バドミントン部
- 剣道部
- 弓道部
- フットサル部
- ハンドボール部
- トレーナーズクリニック
- ソフトボール部 など

### ボランティア系

- 学生サークル「Kid's」
- レクア.コム部
- 国際ボランティアサークル「そよかぜ」
- ピア・エデュケーションサークル
- 学生ボランティアセンター など

### 文化系

- 園芸部
- 茶道部
- 和太鼓部
- 吹奏楽部
- 手話部
- 写真部
- 軽音楽部
- VICON部
- 英語クラブ
- 空オーケストラ など

### サークル系

- 男女混合サッカーサークル
- ダンスサークル
- バレーボールサークル
- バスケットボールサークル
- スポーツサークル
- トレーニングサークル
- スノーボードサークル
- 女子ラクロスサークル
- よさこいサークル舞桃会 など





## 【健康スポーツ学科】平成25年4月 定員100名→160名へ増員予定

NEWS 01

健康スポーツ学科では、平成25年4月に向け、収容定員100名から160名へ定員増加の認可申請を行う予定です。また、新たに「硬式野球部」「女子バレー部」「ダンス部」を強化クラブとして新設する予定です。

プロスポーツの発展や地域スポーツの役割拡大、また健康増進に向けたスポーツへの関心の高まりなど、今やスポーツは国民が健康で豊かな生活を送る上で必要不可欠な要素となっています。こうした中、国は平成23年8月に「スポーツ基本法」\*を制定し、スポーツ推進に向けた基本的条件として「スポーツ指導者の養成」、「スポーツに関する研究の推進」、「学校体育の充実」を掲げるなど、スポーツの専門家に対する

ニーズはますます高まっています。

健康スポーツ学科では、全国でも数少ない保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、従来の「運動」だけに捉われず、「健康づくり」を含めた「地域スポーツの指導者」の育成に取り組んできました。今後、より多くのスポーツの専門家が必要とされる日本社会において、健康スポーツ学科の定員増及び強化クラブの新設は、時代が求める人材育成を更に推進し、国民の「健康づくり」や「スポーツ振興」に貢献できるものと確信しています。

(※スポーツ基本法の詳細はp2をご覧ください)

## 【社会福祉学科】南相馬市仮設住宅における社会貢献活動

NEWS 02

9月17日(土)、18日(日)、本学社会福祉学科を中心とした学生25名、教員3名が、福島県南相馬市の仮設住宅を訪問しました。

今回の訪問は、本学在学生在が東日本大震災で新潟市北区にある豊栄総合体育館に避難されていた被災者の方々を支援させて頂いたことがきっかけとなり、ボランティアに参加した学生の「厳しい状況下で前向きに生きる方々の姿勢に元気をもらったことへの恩返しがあった」との呼び掛けにより実現しました。

交流会では、お年寄りを中心に約120人の方々にお集まり頂き、震災時の様子や避難生活などについて話を伺うと共に、新潟コシヒカリの新米試食会、学生が企画したゲームなどを行いました。プログラムが進むにつれ、ご参加頂いた方々の交流も深まり、和やかな雰囲気、笑

顔溢れる交流会となりました。学生にとって、人と人のつながりをつくる媒介役を務めることができ、とても良い経験となったようです。今後も引き続き南相馬市の仮設住宅における交流活動を継続するとともに、JR豊栄駅前サテライトキャンパスで行なっている地元住民の方々との交流活動に、豊栄近隣に避難されている方々の参加を促すなど積極的に支援活動を続ける予定です。



## 新潟医療福祉大学開学10周年記念式典及び講演会 開催

NEWS 03

10月28日(金)、本学にて学内外の関係者約300名の出席のもと、「新潟医療福祉大学開学10周年記念式典及び講演会」を挙行了しました。

平成13年4月1日、開学当時の2学部5学科から発展を続け、今や4学部10学科となり、保健医療福祉関連の大学では日本海側最大の大学にまで発展を遂げることができました。

記念式典では、新潟市長 篠田 昭氏や新潟リハビリテーション病院院長 山本 智章氏から祝辞を頂き、祝電披露の後、江原 義弘副学長より新潟医療福祉大学の10年を振り返る活動報告がありました。その後の記念講演会では、東京医科歯科大学名誉教授 人間総合科学大学教授 藤田 紘一郎氏により「免疫をつける生活さけいな社会の落とし穴～ア

トピーからがんまで～」と題し、ご講演を頂き、夜には会場を移して開学記念祝賀会が盛大に行われました。

この式典を新たな門出とし、建学の精神と理念に基づき、新潟医療福祉大学は未来に向けて新たな一歩を踏み出しました。今後ともなお一層のお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。



## 平成23年度 保護者説明会 開催

NEWS 04

11月5日(土)、本学キャンパスにて平成23年度保護者会が開催されました。

保護者会は本学学部生1年生から4年生全ての保護者の方を対象に実施され、保護者の皆様から本学の教育方針や指導体制、学生の修学状況や生活状況、就職活動状況などを説明し、本学の取り組みを理解して頂くとともに、懇談会・個人面談などを通して情報交換・親睦を深めることを目的として開催されています。当日は600名を超える保護者の皆様が出席され、会場は終日熱気に包まれておりました。

瀧川悦雄後援会会長の挨拶で幕をあげた会は、山本正治学長による挨拶や、学生代表グループによる総合ゼミの成果発表などが行われました。昼休憩を挟んだ午後からは、学科別に分かれて各専門の教員から具体的な取り組み状況について説明が行われ、その後、懇談会、個人面談の順序で進められました。いずれの学科でも、学生の修学や生活に関する内容を中心に率直な意見が交わされました。

保護者説明会終了後、保護者の皆様から「国家試験に向けた取り組みが分かり安心しました」「学生さんの発表が素晴らしく、未来の明るさを感じました」「色々な学科が集まり一つの事に取り組んでいて、卒業後社会人として力を発揮できる人間に育てるという考えが素晴らしいと感じました」などのご意見を頂き、保護者の皆様の教育への熱意を強く感じた保護者説明会となりました。





## 伍桃祭を終えて

### 第11回伍桃祭(大学祭)報告

3月11日、東日本大震災が起こり、甚大な被害をもたらし、多くの人たちが傷つきました。今年の伍桃祭のテーマである、「make our day～みんなで楽しい一日を過ごそう～」には、来場された方に復興の力となる「笑顔」「楽しいと思う気持ち」「誰かの力になりたいと思う気持ち」を伍桃祭を通して感じて頂きたいという思いを込めました。地域の方々をはじめ、多くの人たちと一緒に、最高に盛り上がる楽しい伍桃祭として開催できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

当日は、大橋トリオさん、おおたわ史絵さん、haikarahakutiさん、Negativesさん、Tatsuya Saitoさん、Supercar2011さんをお呼びしてライブや講演会を行ったり、恒例のMr.&Ms.NUHWコンテスト、全10学科それぞれの学科パフォーマンス、学科対抗イベントなどを行い、体育館や大講堂から溢れるほど多くの方々にご参加頂きました。昨年に引き続き、地域密着型の大学祭ということに重点を置いて企画しており、今年は昨年以上に更に盛り上がる事ができたと思います。

最後になりましたが、無事に伍桃祭を終えることができたのも、学生や教職員の方々をはじめ、地域、企業の方々など、多くの方にご協力して頂いたおかげです。そして、一緒に企画・運営してくれた学友会・伍桃祭実行委員に感謝いたします。ありがとうございました。

第11回伍桃祭実行委員長 濱田 祐輔



## 受験生のみなさんへ

### 春のオープンキャンパス 3月24日(土)

新2・3年生に向けて、「大学概要・入試概要説明」はもちろん、「施設見学」や「個別相談」「体験コーナー」など様々なプログラムを用意しています。また、保健・医療・福祉・スポーツ分野の仕事内容や資格、養成校の最新情報、大学と専門学校の違いなど、みなさんの進路選択に役立つ情報が満載の「進学総合ガイダンス」など春のオープンキャンパス限定のプログラムも計画しています。どうぞお気軽にご参加ください。



### 一般入試(前期日程・後期日程)案内

- 「第2志願制度」の活用で、一度の受験で2学科まで受験可能。

※理学療法学科、臨床技術学科、看護学科を第2志願とすることはできません。

- 前期日程では全国8都市、後期日程では全国3都市に試験会場を設置!  
(前期日程会場:新潟・東京・郡山・高崎・長野・富山・鶴岡・仙台)  
(後期日程会場:新潟・東京・鶴岡)

- センター試験利用入試との併願可能!
- 前期日程の成績優秀者は、「特待生制度」により1年次の授業料が全額免除!

#### ■募集人員

学 科	募 集 人 員	
	前期日程	後期日程
理学療法学科	27名	4名
作業療法学科	13名	2名
言語聴覚学科	16名	2名
義肢装具自立支援学科	13名	2名
臨床技術学科	40名	4名
健康栄養学科	15名	2名
健康スポーツ学科	22名	2名
看護学科	38名	3名
社会福祉学科	35名	3名
医療情報管理学科	20名	2名
計	239名	26名

#### ■入学選考試験日程

試験区分	出願期間	試験日
前期日程	1/5(木)～1/23(月) 【消印有効】	2/3(金)
後期日程	2/6(月)～2/17(金) 【消印有効】	2/29(水)

\*東日本大震災、長野県北部地震、福島第一原子力発電所事故により被災された方へ、平成24年度入学選考試験において【入学検定料免除】及び【授業料減免】の被災者修学支援措置を講じております。

詳細につきましては、入試事務室 (tel:025-257-4459) までお問い合わせください。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地  
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456  
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>  
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>  
【入試事務室】TEL025-257-4459  
E-mail [nyuusi@nuhw.ac.jp](mailto:nyuusi@nuhw.ac.jp)

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

